

第1学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析） ← 当面の間、昨年度の1年生の実態より転載

- 成果**
- 数を唱えたり、数を数えたり、具体物を動かしたりする活動への意欲が高い。
 - 1～10の数字の読み書きについて、行うことができる。
- 課題**
- ▼ 数量感覚の身に付き方に児童によって差が見られる。
 - ▼ 「いくつ」や「あわせて」等の言葉の意味をイメージすることが苦手な児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 数字や数の概念を確実に理解する。
- ◇ 問題場面を正しく理解し、立式することができる。
- ◇ 生活体験や既習事項を基に自分で考えて、答えを出す。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 授業の導入時に前時の復習をするなど、何度も繰り返し練習できるようにする。
- 授業の終わりに振り返りの時間をとり、学んだことを明確にし、今後に生かしていけるようにする。

言語活動の工夫

- 問題場面を図や式に表して言葉で説明する時間を設定する。
- 隣同士、小グループ、クラス全体など、様々な場面で自分の考えを伝えられるようにする。

ICT活用の工夫

- 実物投影機を活用し、具体物や半具体物の操作を大型テレビで実際に見せたり、児童のノートを映したりして、学習内容の習熟や授業の展開に役立てる。

課題解決力育成の工夫

- 自分の考えを、図や言葉でノートにまとめる活動を取り入れる。
- 問題場面をどのように解決したらいいか、予想したり見通しをもたせたりする。

達成目標

- 加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表す技能を身に付ける。
- 簡単な計算の仕方を考える力や形の構成について考える力、量の大きさの比べ方を考える力、身の回りの事象を捉える力を養う。
- 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。